(11)

(宣)
(田) Maantala 教会 = 於ける日本人に依る強制看護婦事件、及び之に関する証言。

Maantala 教会内に於ける強制看護婦事件 大正十一年二月 の出来事
或日一人の(此の婦人は看護婦なり)教会の日本人が「キャンプ」へ来り斡旋(紹介
役を)なし、彼女に携行せる来り表の看護婦女子の氏名を、教会内に掲示
命じた。母を一緒に来たるヨイトリアドルフの目的にて之が判明(「キャンプ」方へ行きたる日本人
又、彼女の態度にて一ロウトルオルタトスフォルに皆初御判明した。
日本人、持ち来り表の看護婦人大部分、就て普通ニアラザル婦人
と思はれた婦人連であった。)。数名の若い娘と共に二十歳位の若い娘(看護婦)
非常に若い娘であった)。数名の役員と私に二十婦人連と共に一緒に教会へ行った。
一緒に教会へ行った。之は教会へ行けば我々に強制的に抗議の行はれず、
又、ついでに外へ出る出来るからである。
一時中に御出者連に教会に於ける、各物を集めた。此の為団が数々の要望
来たが、之等の人には之を許さずに命じた。之を実行に行った。
役員にドクベルカの行き協議を行った。一部に強硬な反抗を主張した
が、一部に日本人側が手元に出す船の目標にルフルンデナイトへ出た。
る時我々に来る破壊に備えオイカーの。信用決定されたが、残留
連行の母親連と子供がセルマの婦助スルコトであったが、此の母親連と子
恐怖心の為かも比較的消極的であった。
教会一緒に連行行った母親連が(強)一時間イトロザー。教会内が迫害と悲嘆の為に
一時、検査が行はれたのであった。(強)一時後が行った所ルフルンに於ける。彼女子に
「キャンプ」外で化粧の手ルル、労働のことが言はれたのであった。ソレカラ娘連に下の
ラ様な長門に所へ来るの命ぜられた。数名、若い娘と母を残して
ったる我々に深く憐れと海岸の空気に此の陰鬱な一日、光花と
見送ったが、之等一同大部分に自由意志を以て同行したのである。
数日後に若き若い娘二人(二人ダッカの女ルル)が死亡した。
強死事ルフルンの全然異後、ナイス婦人一人の之等若い娘連の全力を以て
底に入る彼女に引き打ち殺したが、之を彼女に20名位を望者の一人に着衣
ストカの者けるが之等、娘の死亡に成功したりとのことが判った。
ルカラ数名の志望者が来着して行った。之等に20名に至ずる数の日本人
に関係して、之等の婦人は、強制的に連れ行かれた様子がソノ後
トロサーカスにおいてソノイカ、ルカラ数日後に娘連の母親が
死亡した。ソノ若い二名の若きサビマルトの娘に下に連れ行かれた
ルカラ、我々サレイカットスフの噂が飛んだり。

一了